

ホンモノが生み出す学びの可能性

—生徒の人生をより豊かに—

いぬい まどか・加藤 あきひろ やまのい じゅんべい
乾 まどか・加藤 晃浩・山井 惇平

抄録：本論文は、2023年度の第1学年68期生を担当した3人の英語教員による年間の実践記録である。書籍や研究会などから学んだ理論をもとに、育てたい生徒像を共有しながら年間指導計画を策定した。年間を通じた指導には、発音の重視、心を揺さぶる教材の開発、個々の表現意欲の尊重、そして生徒・教員・家族間の対話の重視などが含まれる。毎週月曜日には打ち合わせの時間を設定し、情報やアイデアを共有しながら実践を進めていった。未来の生徒像を想像しながら、知識の転用ができるスキルは何かを考えながら授業立案を行った。

キーワード：英語教育、パフォーマンス評価、OECD Education 2030

1. はじめに

今年度は、研究部で設定された推進日に京都大学大学院西岡加名恵先生に講演をいただき、パフォーマンス課題の作り方、ルーブリックの作り方についてのワークショップを予定していた。そのため、3月より書籍を通して、学びをスタートさせた。3月はじめに「逆向き設計」論に基づき年間指導計画、カリキュラム全体設計を行った。その計画の中で、「本質的な問い」が学問の中核に位置する問いであり、生活との関連から学ぶ意義が見えてくる問いである（西岡2021）ことを確認した。それに基づき、3月より計画を立て、1年目の試みとして逆向き設計を実施した。

昨今、教育課程の基準は、教育内容（コンテンツ）から到達目標（コンピテンシー）とその学びの過程や指導方法への基準に重きを置くようになってきている。本校の研究主題にある「コンピテンシーを軸にした」という目標に従い、コンテンツに関しては、従来通り何を生徒に与えたいかという教え手の思いも大事にしながら、コンピテンシーを軸にした授業設計を行った。

表1 文部科学省外国語編 英語科の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す

学習指導要領には「学ぶことの意味と自分の生活、人生や社会、世界のあり方を主体的に結びつける学びが実現され、学校で学ぶ内容が生きて働く力として育まれること」とある。生徒たちが、高校時代に身につけた知識・技能を使い、人生を豊かに過ごすために必要な広い教養を身につけ、周りの人との関わりの中で幸せに生きるために必要なコンピテンシーを身につけて欲しいとの願いで指導計画を立てた。本稿は、その実践の記録である。

2. 年間授業の流れ

以下がそのポイントである。

- ①発音について重点を置く活動を取り入れる
今年度入学してくる1年生（高68期）は、中学3年間でコロナ禍にあり、発音についての学習が例年より少なかったことを鑑み、発話の楽しさを味わうために実施する
- ②生徒たちの心を揺さぶる教材を選定し、家庭と学校を結ぶ取り組みを行う
心がワクワクする人生を送るために必要な感受性を身につける
- ③個々の個性を大事にした表現活動を導入する
一人一人の魅力を最大限に発揮する
- ④4技能5領域を意識し、教科で作成したCAN-DO LISTを意識しつつ、生徒同士、生徒と教員、また生徒と家庭の対話を重視した授業展開を考える
人との関わりの中で生きている実感を持つ

2-1. 学校文化について（背景）

学校文化は、学校で長期間共有された意味や価値観、行動様式などの束である（田村2022）。各学年の構成員に“共通感情”としてある「物の見方」や

「考え方」のことである。この場合の構成員という学年団や教科担当者のことであるが、本校では生徒がこの学校文化の継承に大いに活躍している学校だと言える。

英語科としては、感性をいかに揺さぶり、卒業後も心に残る教材や取り組みを行うかを重視した。勉強は場所を選ばず一人でもできるとすれば、学校で学ぶ意味はどこにあるのだろうか。本校は、議論を大切にし、苦手分野よりむしろ得意分野をさらに掘り下げ、苦手分野に関してはそれが得意な人を頼ればいいというような学校文化がある。教員集団も苦手克服をということは言わず、好きなことは好きなだけ追求しろという。

2-2. 年間の流れとその準備

表 2 3月作成年間計画

	生徒	教師
3月		年間計画立案
4月	授業開き、年間計画	年間 Monthly Songs 決定、大阪観考準備
5月	大阪観考実施	
6月		文法テスト（選択肢）作成
8月	文法テスト（選択肢）実施	クリスマスツリー作製、クッキーの実習
9月		クリスマス企画準備・家庭科教員と打ち合わせ・教材の購入
10月	文法テスト（記述）実施	
11月	クリスマスツリー準備 カリグラフィー	
12月	ツリー写真提出 1分間動画作成、提出	

1学期には教室内での学びを準備段階と位置付けた。自らが計画したことを実際に実行する企画が「大阪観考」である。文字に現れるように「自分の目で観る」そして「考える」ことを目指した。また、2学期は、クリスマスに向けて、『心がワクワク』しながら共に学ぶ時間を共有できる企画として英語科を中心に音楽、家庭科との横断学習を取り入れ、表現することを中心に行った。学校の授業では、創造的思考力を育成すること、学習したことを経験とし、それを転用できる能力を育むことをめざした。

3. 授業開き

高校1年生英語科は英語コミュニケーション（EC I）3単位、論理表現 I（LE I）2単位の合計5単位である。今年度は、英語コミュニケーションを山井が担当し、論理表現 I の2単位を乾と加藤・レクセイのTTで1単位ずつ担当した。

Start a Journey 68期1年英語
教科名・担当者・教材

英語コミュニケーション I (山井倅平) Heartening I English Communication	論理・表現 I (加藤晃浩) ～ Sky クラス～ MAINSTREAM English Logic and Expression I	論理・表現 I (乾まどか) ～ Ocean クラス～ EARTHRISE English Grammar 24 Stages + ワークブック
------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------

共通で使用するもの: EARTHRISE 総合英語(参考書)

英語コミュニケーション I (EC)
様々なテーマについての長い英文を読み進めていきます。一文ごとの意味を正確に理解すること、文と文どうしのつながり方に注目して読むための力を身につけます。

論理・表現 I (LE)
➢ Sky では、教科書を使用しながら様々なテーマについて考え、ペアやグループ、時にはクラス全体で意見を交流していきます。同時に、英語らしい論理構造を身につけます。
➢ Ocean では文法の基礎をしっかり固め、演習を通して英語独特の表現や母語との違いに気づく授業を行います。また、音声を聞き、自分の言いたいことを自分の言葉で表現できる力を身につけます。

Time Table

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
	EC(山井)		EC(山井) LE(加藤・レクセイ)	LE(乾)

Google Classroom: knpfuvu

評価について

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう主体性
80 点		20 点
80 点のうち 60% は調査、40% はパフォーマンス課題		プロジェクト研究

検定試験について
GTEC(全員受験) [5/26(金) Speaking, 5/29(月) 3技能] / TOEFL ITP(希望者制) [7/7(金), 3/11(月)]

グローバルスタディーズプログラムについて(希望者制 資料あります)
5日間英語漬けの濃い夏休みを過ごしてみませんか?
外国人留学生たちとディスカッション! Don't be afraid of making mistakes!

図 1 授業開き資料

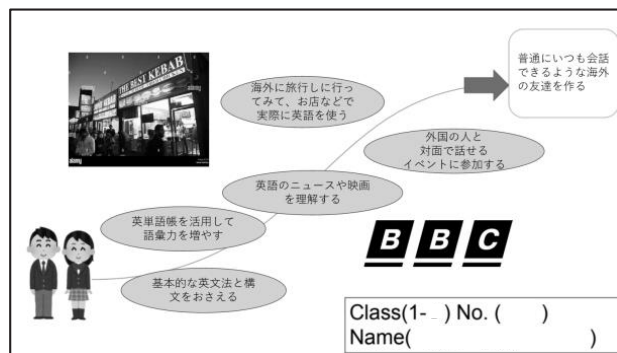


図 2 学びのミライ図

4月の初めの授業で学年全員を大学棟西館ホールに集め、授業開き資料Start a Journey (図1)を使用して、担当者、評価方法、計画を伝えた。特に、高校生活をJourneyとし、大きな海、大きな空で何にも囚われず、自由に航海をし、飛びたつて

いって欲しいという担当者の願いを強調して伝えた。英語表現でのクラス名は、1 コマを Ocean、1 コマを Sky と名付けることを伝えた。これは、「真正の学びで学校からの学びを超えと社会への飛び出しを促す」(石井 2023) を意識し、名付けたものである。

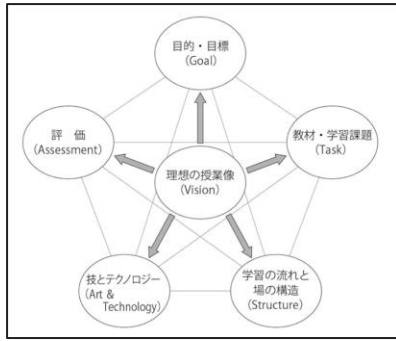


図 3 授業づくりのフレーム

その後、学びのミライ地図(図 2)をPPTで示し、それぞれが持参したPCで1年後の自分の姿を作成し、Google Classroom で投稿させた。これにより、1年間の目標を可視化させた。

授業づくりのフレーム(図 3)にあるように、理想の授業像を中心とし、まずは生徒と共に目標・ゴールを共有し、生徒たちが目指す像を確認したのちに、教材を検討し、計画を立てた。また、授業の流れも確認することができた。コロナ禍で頻繁に活用するようになったICT機器の使用時期、タイミングについても効果的な使用方法について計画することができた。評価については、今年度からは「知識・

技能、思考力・判断力、主体性」をどのように評価していくのか生徒に詳細を伝えた。

4. 洋楽 ~英語・音楽の教科横断授業~

昨今の英語授業では、生徒も教員も授業内で英語を発する時間が格段に増えた。ペアやグループでの英語での活発な対話を促進するには、互いに聴き合う関係性を育てるクラスの温かい雰囲気が鍵となる。それと同時に、自由な発話時において生徒は発音までなかなか意識が回らないことも少なくない。以上を背景に、今年度は学年教科担当3人で相談し、年間を通して5曲の洋楽を授業冒頭に帯活動として歌うことにした。積極的な発話への動機づけや発音力向上が目的である。

高校1年生に身につけさせたい力の1つが発音で

表 3 年間の流れ

時期	曲名
4月5月	Seasons of Love
6月	Bad Day
9月10月	One Thing
11月	Happy Xmas (War Is Over)
1月2月	The Gift

『Seasons of Love』
作詞・作曲: ジョナサン・ラソン (Jonathan Larson)

<p>Five hundred twenty-five thousand Six hundred minutes Five hundred twenty-five thousand Moments so dear</p> <p>Five hundred twenty-five thousand Six hundred minutes How do you measure Measure a year?</p> <p>In daylight, in sunsets In midnights, in cups of coffee In inches, in miles In laughter, in strife In 525,600 minutes How do you measure a year in the life?</p> <p>How about love? How about love? How about love? Measure in love Seasons of love Seasons of love</p> <p>Five hundred twenty-five thousand Six hundred minutes Five hundred twenty-five thousand Journeys to plan</p>	<p>Five hundred twenty-five thousand Six hundred minutes How do you measure the life Of a woman or a man?</p> <p>In truths that she learned Or in times that he cried In bridges he burned Or the way that she died</p> <p>It's time now to sing out Though the story never ends Let's celebrate, remember a year In the life of friends</p> <p>Remember the love (You got to, you got to remember the love) Remember the love (You know that love is a gift from up above)</p> <p>Remember the love (Share love, give love, spread love) Measure in love (Measure, measure your life in love) Seasons of love Seasons of love</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

結婚式や披露宴でも使われるミュージカル『RENT (レント)』劇中歌

解説
NYイースト・ヴィレッジに暮らすボヘミアンたちの愛と苦悩に満ちた1年間を描くミュージカル。伝説のグロウエイ・ミュージカルの映画化。監督は「ハリウッド・ストーリー」のクリス・コロンバス。撮影は「クローサー」のステイヴン・ゴールドブラット。音楽(作詞・作曲)はオリジナルの舞台の自筆も手掛けたジョナサン・ラソン。編集は「ボンスプレマシー」のリチャード・ピアン。衣裳は「リチャード・ニコラソン」で衣装をデザインした。出演は「シン・シティ」のロザリオ・ドゥーソン。(以下はオリジナル舞台にも出演)「閉ざされた森」のチャイ・ディグス、「フロレス」のウィルソン・ジェレメイン・ヘレディア、「レストラン」のジェシー・L・マーティン、「KISSing ジェシカ」のイディナ・メンゼル、「スクール・オブ・ロック」のアダム・バスケル、「ビューティフル・マインド」のアンソニー・ラップほか。

2005年製作/135分/アメリカ 原題: Rent
ストーリー
1989年ニューヨーク、クリスマス・イヴの夜、イースト・ヴィレッジのロフトに住むルーメイト、HIVウイルスに侵された元人気ロックバンドのメンバーであるロジャー(アダム・バスケル)と、ドキュメンタリー映画作家を目指すマーク(アンソニー・ラップ)は、家賃を滞納して電気止められていた。今は資産家となったかつての仲間ベニー(チャイ・ディグス)が家賃を優待してくれるが、彼は実は、若き芸術家たちのためにスタジオを作ること計画している。そんな夜、ロジャーは階下に住む麻薬中毒のダンサー、ミミ(ロザリオ・ドゥーソン)と出会う。心を惹かれ始める。その頃、強盗に襲われた哲学教授のクリンズ(ジャッセ・L・マーティン)は、ドラッグ・クイーンのエンジェル(ウィルソン・ジェレメイン・ヘレディア)に助けられ、お互いエイズという病気を抱えていることを知り、すざま恋に落ちた。クリスマス、ベニーの帰る立ち寄り計画に抗議するため、パフォーマンサー・アーティストのモーリーン(イディナ・メンゼル)がライブを行なっている。彼女はマークの元恋人だったが、今は女性弁護士ジョアンヌ(トレイシー・トリス)と付き合っていた。そしてロジャーは、ミミもHIVに感染していることを知り、2人は恋人同士となる。大晦日、ついにロフトは閉鎖され、仲間たちの環境は徐々に変化していった。そして1年経ち、発病していたエンジェルが死亡。残された仲間たちは、今この時を精一杯生きることを改めて決意するのだった。

出典: <https://eliga.com/movie/52977/>

組 番 名前

図 4 歌詞の配布資料

ある。昨年度の3月に担当者3人で発音教材のサンプルを取り寄せ、発音時の口の中の構造が分かりやすく図解された『三訂版英語の発音ノート』（数研出版）を採択することにした。この教材の各ページに付属するQRコードを携帯で読み取らせることで、生徒はモデル音声を聴いて実際に発音を録音し、その評価を確認することができる。1、2学期にかけて英語コミュニケーションと論理表現の両方の授業の冒頭で発音を学び、練習する時間を確保した。帯活動として洋楽を歌い、そこに教材を用いた発音練習を並行させたわけである。

曲選定にあたり、音楽科との協同ができないかという点も視野に入れた。音楽科ではミュージカル『Rent』の劇中歌であるSeasons of Loveを歌わせたいと考えており、英語科としても最初の1曲はこれを歌わせることに決定した。発音は英語科で確認し、音楽科に歌の指導をしてもらうという手はずである。こうして音楽選択の生徒たちにとって教科横断という形になった。その他の選曲では、生徒の好きそうなメロディ、メッセージ性などを念頭に季節柄も考慮に入れ、担当者3人で出したアイデアを絞り込んで決定した（表3）。同時に、歌詞の配布資料も春の時点で分担して作成しておいた（図4）。

5. 大阪観考

生徒が国際交流に参加することを動機づけること、そして、身近な地域により親しみを持ち、観光名所を自分で考え英語で説明できるようになることを目的に大阪観考という探究型学習を1学期に実施した。大阪環状線の内側でフィールドワークを行い、そこで見つけた観光名所をガイドブックの1ページとしてまとめ、プレゼンテーションを行うという企画である。学習企画の名前に「観光」でなく「観考」を用いた理由は、ガイドブックやインターネットで見つけることができるありふれた観光スポットの紹介をするのではなく、生徒が自らで大阪の地を歩き、見て感じて、聞いたものを、歴史や地理、文学などの観点からも掘り下げ、知的な面白さがあふれるinterestingかつuniqueさを大切にしてほしいと考えたからである。生徒にもこの理念を伝えたいので学習に取り組ませた。

大阪観考は以下の5ステップに分けて実施された。

ステップ①: Introduction, Brainstorming (5月15日)

前述の理念とともに、目的、これからの流れ(Procedure)を説明(図5)、Brainstorming(図6)を行わせた。今後のフィールドワークに向けて焦点を絞れているかに注目しながら、コメントを書いてフィードバックを行い、必要に応じて修正を促した。

Project 1: Make a Unique Travel Guide -大阪観考- No.1

Introduction Class (1-) No.() Name ()

Purposes

- ①To expand your knowledge of Osaka City
- ②To find some attractive features and values in Osaka City
- ③To enjoy your own research
- ④To foster the presentation ability

Procedure

```

    graph LR
      A[Introduction May 15] --> B[Brainstorming May 15]
      B --> C[Grouping May 23, 6th period]
      C --> D[Fieldwork May 25]
      D --> E[Make Your Travel Guide [Homework(PPT file)]]
      E --> F[Presentation After 1st term exam]
  
```

Brainstorming

- Brainstorm your interests
- List spots that tourists from other countries may be interested in
- Write reasons why you choose them
- Decide where to visit on the fieldwork **ONLY within** the Osaka Loop Line
- Research entrance fee and transportation fee
- Make a reservation if necessary

Grouping

- Make a group of about four based on the **interests you share with others** in the same area

Fieldwork

- Get two stamps from teachers at the beginning/end of the fieldwork
- Gather unique information to make your travel guide

DOs

- Take notes
- Take photos
- Make your reference list

DON'Ts

- Use bicycles and taxis
- Just copy pictures and information on the internet

図5 配付プリントNo.1

Project 1: Make a Unique Travel Guide -大阪観考- No.2

Brainstorming Class (1-) No.() Name ()

Step 1: Brainstorming

What interests you?

Step 2: Keywords and ideas

List spots that you want to present to people from other countries. Write reasons why you choose them.

<Spots>	<Reasons>

Step 3: Area to visit

※**ONLY WITHIN** the Osaka Loop Line
Circle the area you want to visit during your fieldwork (IN BOLD RED).




図6 配付プリントNo.2

Project I: Make a Unique Travel Guide -大阪観考- No.3

Grouping

Group No.	(*TEACHERS WILL FILL IN)			
Class	I-	I-	I-	I-
No.				
Name	(Group Leader)			

①Area to visit (なんば・大阪城・大阪北・天王寺)

②Theme of Your Group

③Time Schedule
~13:00 Finish lunch and leave school

16:00-16:30 Check Point. End of Fieldwork.

Stamp

Leaving School 12:45~13:00	Check Point@16:00-16:30 CheckPoint
-------------------------------	---------------------------------------

図7 配付プリントNo.3

Project I: Make a Unique Travel Guide -大阪観考- No.4

Procedure

Make Your Travel Guide

Guideline

- Focus on a **single and unique topic**. ※DO NOT cover multiple topics. (multiple:複数の)
→Your guides will be compiled into a book (compiled:編集する)
- Make your travel guide in Microsoft PowerPoint ※DO NOT use Google Slide
- Your travel guide should be a **portrait, one-page, A4 size slide** (ここでは、portrait:縦向き)
- Convert your PPT into PDF
- Submit your travel guide(PDF) from June 19th to June 23rd (submit:提出)

Presentation

Semi-Final
Date: July 10th (in LE)
Place: Your Homeroom
Content: ①1minute presentation by every student
②Decide 5 best students of each class

Final
Date: July 19th (2nd period to 4th period)
Place: University
Content: ①Presentation by 20 students chosen in Semi-Final
②Decide 3 best students of the 68th students

図8 配付プリントNo.4

Project I: Make a Unique Travel Guide -大阪観考- No.5

Procedure

Presentation

	Semi-Final	Final
Date	July 10 th (in LE)	July 19 th (2 nd period to 4 th period)
Place	Your Homeroom	University
Content	①1-minute presentation by every student ②Decide 5 best students of each class	①5-minute Presentation by 20 winners of the Semi-Final ②Decide 3 best presentators of the 68 th students Best 3 students will be awarded with special prizes!
Audience	Your classmates	Professors and special guests
Notes	<input type="checkbox"/> Give a presentation about the CONTENT in your poster , not the poster itself <input type="checkbox"/> Your presentation has to include pictures you took <input type="checkbox"/> Do not use a lot of words on your slides but speak <input type="checkbox"/> Your presentation automatically ends if time is up <input type="checkbox"/> Practice, practice and PRACTICE!	

Evaluation Criteria

	Excellent A	Good B	Need to improve C
Content	Very unique and surprising with information and perspectives new to you	Unique and surprising	Does not meet the conditions of "B"
Presentation skills	Very effective gestures, eye contact and volume of voice	Effective gestures, eye contact and volume of voice effective	Does not meet the conditions of "B"

Teachers evaluation also includes the following. ↓

	Excellent A	Good B	Need to improve C
Pronunciation Intonation	Natural pronunciation and intonation particularly	Appropriate pronunciation and intonation	Does not meet the conditions of "B"

How to evaluate

You have to fill in an evaluation sheet like below.
 ① Evaluate other students with A, B or C in each perspective
 ② Select the **five best students** and give them S

(Example)

Class	No.	Name	Content			Presentation skills			S
A	1	Tanaka Taro	(A)	B	C	(A)	B	C	
A	2	Suzuki Keiko	A	(B)	C	(A)	B	C	
A	3	Sato Mika	(A)	B	C	(A)	B	C	O

図9 配付プリントNo.5

ステップ②：Grouping（5月23日）

ステップ①の結果から、4つの地域に生徒のフィールドワークが収束することが分かった。この日はクラスの枠をなくし、学年全員を小講堂に集め、各地域で生徒が互いに学び教えあいながらフィールドワークを行えるよう、4人1班を作らせ、行動計画書（図7）を提出させた。

ステップ③：Fieldwork（5月25日）

5月25日の5,6限でフィールドワークを行った。学校でスタンプをもらってから班で出発する。最後は各地域のチェックポイントで待機している教員からスタンプをもらい授業としての活動は終了する。

ステップ④：Make Your Travel Guide（宿題）

Microsoft PowerPointを用いてTravel Guideを作成させ、Google Classroomを通じてPDFで提出するように指示（図8）した。

ステップ⑤：Presentation（7月の1学期考査終了後）

7月の1学期考査が終了した後の授業で、各クラスの全生徒にTravel Guideについてプレゼンテーション（図9）をさせた。このプレゼンテーションはSemi-Finalとなっており、後述するFinalに出場する生徒を決める役割も担っている。Content、Presentation skills、Pronunciation/Intonationの観点から1年英語科担当教員で評価を行い、各クラスから5名、計20名を選出した。

Finalはホール型の教室で行い、大阪教育大学教授2名と日本に留学中の大学生1名、第3学年担当英語科教員1名の計4名が審査員として参加した。

6. クリスマス企画「ツリー」作製、「クッキー」作成～英語・音楽・家庭科の教科横断授業～

どんな学びも社会に繋がっている。そして、生徒の学びを表現する方法は多々ある。課題として、表現力を育成する場面を増やしたい、そのような願いから教科横断的な授業を立案した。

事前活動として、考査前に英語の作製手順をス

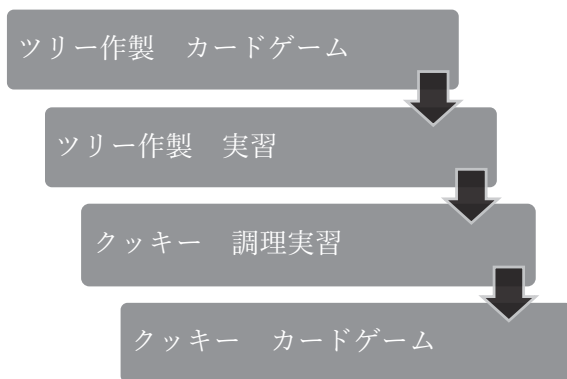


図10 授業の流れ

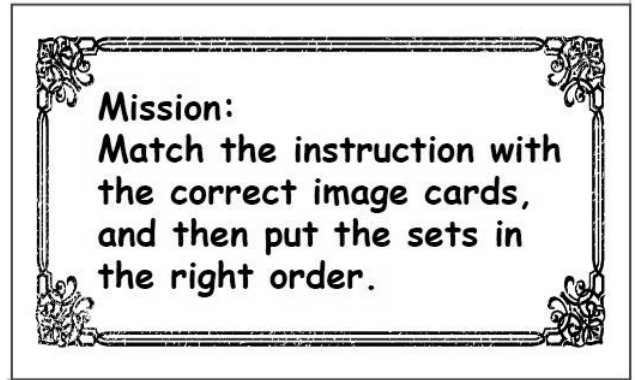


図11 カードゲームの指示文



図12 取り組む様子

テップごとに並べ替えるカードゲーム（図11）に取り組ませた。生徒たちはキーワードや写真との照合をヒントにしながら正しい順序を導き出していった（図12）。その後、作製手順書（図13）を読解させた。英語科としては、生徒たちに裁縫に関する語彙を獲得させることが鍵となる。実際に使用したカードは最後に参考資料として掲載した。

6-1. 実習「クリスマスツリー」

実施日：12月11日（月）～14日（木）

1日1クラス 2コマ連続

対象：高1生 159名

場所：自教室、被服室、調理室

イギリスの生地リバティーファブリックと日本製の生地の違いを肌で感じ、周囲にどのような違いがあり、それは何故なのかという仮説を立てながら対する時間を確保した。京都大学石井英真先生の「授業で最低限押さえるべき本質的な目標を具体的に絞り込むことは、ドラマ的な授業展開の条件である追求過程の焦点化・簡略化にもつながり、シンプルでストーリー性をもった創造的な授業を見通しを持つ

Christmas Tree

Vocabulary List for Sewing

backstitch: A sewing technique that strengthens stitches (= lines created by sewing) by reversing the direction of the thread at the beginning and the end

fabric: the material used for making clothes, bags and curtains




pattern: a shape used as a guide for making something



pin: a small piece of metal with a sharp end, used to hold pieces of cloth together



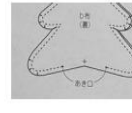
sewing chalk: a marking tool that helps to cut and sew accurately

stuff: to push or put something into a small space

- Place six tree-shaped **patterns** on the backside of the **fabric**. Be careful of the direction of them. Trace each of them with a **sewing chalk**, and then cut them out.






- Cut along the inner lines of a pattern and trace three pieces. This step is optional.






- Place the right sides of the fabric to face each other and secure them with **pins**. Then, sew two pieces together over the marks using a sewing machine. Don't forget to **backstitch** at the beginning and the end. Leave the bottom side open for all three sets.








Class: Number: Name:

- Make small cuts at all the sharp curves and the corners. For all three sets, turn them inside out through the opening at the bottom. Use something like a chopstick to push out the tips.



- Make the bottom openings neat and tidy either by hand or using an iron. Join the three sets together using a sewing machine, sewing down the center, starting from the top and going all the way to the bottom. Here again, don't forget to backstitch at the beginning and the end.




- Stuff** cotton through the openings. Use a chopstick or similar tool to add a small amount at a time, starting from the top and corners. After you've finished it, carefully hand-sew the opening closed.




- Use your imagination and decorate freely with creative ideas.




図 13 ツリー作製手順書

て進める基盤となる」によるものだ。リバティーフアブリックは糸が細く、滑らかな表面である。それに対して日本製の記事は頑丈で分厚く、ミシンで縫いやすい。それらの生徒の感覚や感想からこの作製を始めた。ツリー作製の創造を膨らませるため、10種の生地（日本製3種を含む）から生徒に選択させた。

その選択の際の項目は以下の通りである。

1. 誰のために作製するのか
2. どこに置くのか
3. どのような装飾をつけるのか

上記3項目に加え、作製した感想を年末までに1分間スピーチとして動画を提出する。常に生徒は教師の想像を超えた作品を提出してくる。動画に背景音楽をつけ、文字までついている。本物のコマercialのような動画を提出してきた。また、装飾や置く場所に個性が光る。学校の授業では見えない一面がその動画を通して教師が知る機会となった。評価については以下のループリックで行った。



図 14 取り組む様子



図 15 ツリー完成例

ループリックに関して以下のように定め、評価した。

Pronunciation:

Level 3 (Excellent):

Pronunciation is clear and easily understood throughout the video.

Consistent and accurate pronunciation, even with complex terms.

Level 2 (Good):

Pronunciation is generally clear, with occasional minor errors.

Demonstrates an effort to maintain clarity in pronunciation.

Level 1 (Needs Improvement):

Pronunciation significantly affects understanding. Limited use of correct pronunciation, hindering overall clarity.

Expression:

Level 3 (Excellent):

Expresses ideas with enthusiasm and creativity. Engages the viewer with a captivating and articulate presentation.

Level 2 (Good):

Expresses ideas clearly with enthusiasm, with occasional minor inconsistencies. Demonstrates a good connection between fabric choices, design, and intended placement.

Level 1 (Needs Improvement):

Expresses ideas with difficulty, and enthusiasm is lacking. Struggles to convey the rationale behind fabric choices, design, and intended placement.

Vocabulary:

Level 3 (Excellent):

Selects words appropriately to convey nuanced meanings related to the fabric choices, design, and placement.

Demonstrates a high level of language proficiency in the context of the task.

Level 2 (Good):

Uses a good range of vocabulary with occasional minor errors.

Conveys ideas effectively, though there may be occasional word choice issues.

Level 1 (Needs Improvement):

Limited vocabulary affects the ability to express ideas.

Demonstrates a lack of depth in word choice, particularly related to the task.

6-2. 実習「クッキー」

ツリーと同じように実際に手を動かし、クラスメイトと協力しながらクッキー作りに取り組んだ（図16）。学校で用意していた型抜きに加えて、家庭から型抜きを持参したり、型抜きを使わずに手で成型したりするなど工夫してクッキーを作る生徒もいた。調理手順を読み込むことは、効率よく正確に作業を進めるためには欠かせない。よく読み込まずに作業をし、時間がかかる班もあった。事後学習として、ツリーの時のような



図16 クッキーを作る生徒



図17 語彙の導入プリント

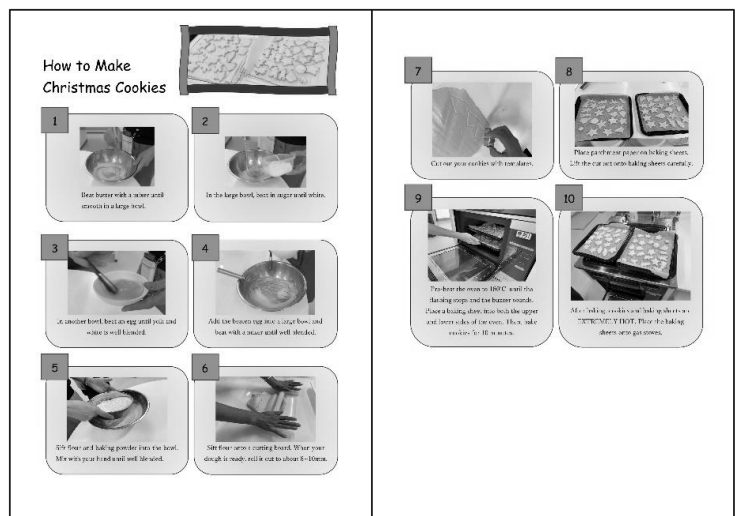


図18 クッキーの作り方（英語版）

カードゲームを用いてクッキーの作り方を英語で完成させる活動を行った。初めに、プリント（図 17）を用いて、語彙と絵の対応から意味を学んだ。その後英語で作り方が書かれたカードと写真カードを組み合わせ、作成手順を完成させた。作成手順を完成させて手が空いた班は、手順を班で一文一文初めから最後まで丁寧に音読するように指示した。これは実習時に説明を読み込むことの大切さに気付いたことからの工夫である。授業後に、生徒の振り返りのためにクッキーの作り方が英語で書かれたプリント（図 18）を配布した。

7. 考察

7-1. クリスマス企画「ツリー」作製、「クッキー」作成～英語・音楽・家庭科の教科横断授業～ 〈教師の気づき〉

生徒たちに生活と密接に関わることを教える必要性を感じた

1. 家庭科の授業は高等学校カリキュラムでは高Ⅱで実施である
2. 生徒たちがミシンを使用するのは小学校ぶりであり、中学校では使用していなかったこと
3. まち針の留め方
4. 生地のカットの際に、いかに有効的に生地を余らせることができるかに時間をかけるべきだった〈生徒の感想より〉

7-2. 洋楽のアンケート分析

生徒たちは授業の冒頭で洋楽を歌ったことについてどのように受け止めていたのかを知るため、1月にアンケートを実施した。結果（図 19）を以下に示す。

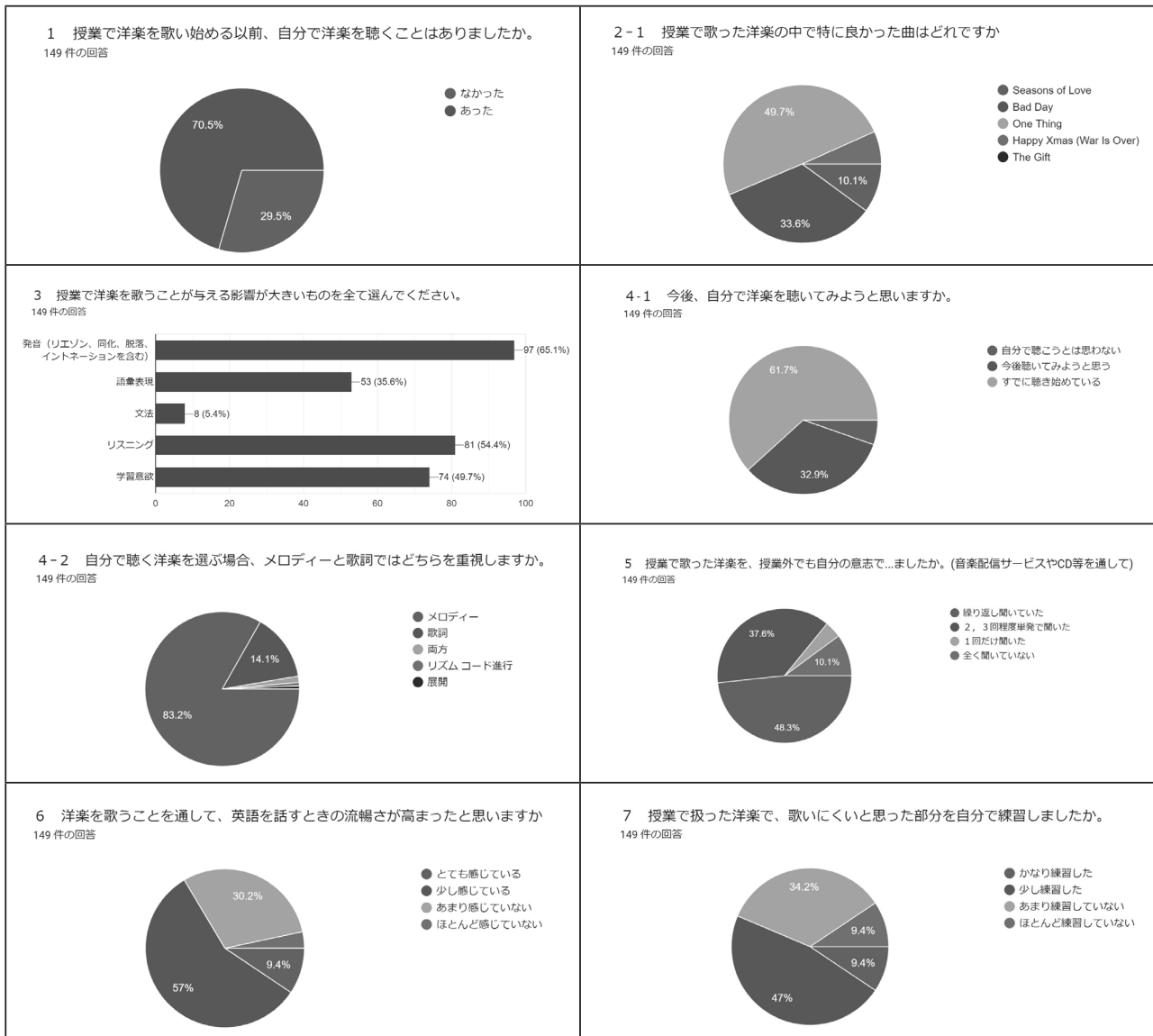


図 19 洋楽についてのアンケート結果

質問1によって、約3割の生徒がこれまで洋楽を聴いてこなかったことが判明した。もし授業で扱ったことがきっかけとなり、生徒にとっての新たな扉を開けたのであれば非常に嬉しいことである。実際に質問4-1や質問5の項目からも分かる通り、1年間を通して約9割の生徒が洋楽を聴くことについて肯定的な考えを持ってくれた。質問2では扱った中で良かった曲とその理由について尋ねたところ、生徒たちはリズム感がよくテンポやメロディが心地よいものを好む傾向があることが分かった。半数近くの生徒がOne DirectionのOne Thingを選択しており、その理由にメロディが美しいこと、曲調が明るいこと、テンポが速いことなどを理由に盛り上げられるといった要素を挙げていた。3割以上が選択したBad Dayではリズムが聞き取りやすいこと、メロディが親しみやすいことなどが書かれていた。質問4-2でも、生徒にとって歌詞よりメロディの方が曲に対する好感度に大きな影響を持っていることを示している。

教科書に出てくる生徒向けの教材とは異なり、洋楽の歌詞を扱うことはオーセンティックな英語に触れる良い機会である。しかし、質問3における語彙表現、特に文法の項目は他と比べて低い結果となった。もちろん授業内で一部の歌詞の意味に触れることはあったが、時間の制約もあり歌詞の表現形式について授業内での学習に大いに活用できたとは言い難い。生徒の記述回答でも全体的には肯定的なものが多い中、この点について鋭く指摘したものも含まれていたのが最後に掲載している。これについては、洋楽の扱い方をさらに一步前に進めていくために貴重な意見であるので今後の課題としたい。

最後に、「授業で洋楽を歌ったことに関する全体的な感想を記述してください。」という質問項目を用意した。生徒の記述では、全体的に英語授業や学習そのものに対して前向きな動機づけとなる点に触れた記述が目立った。これらをワードクラウド（図20）で表したところ、次のようにポジティブな言葉が多く見られ、洋楽を歌うことで楽しみながら学んでいたことが読み取れる。

また生徒の回答の一部を抜粋して原文のまま掲載する。

- ・今まで興味なかった洋楽との距離が縮まった気がした。
- ・英語にアクセントができた
- ・今まで洋楽は難しそう、何を言っているのか分からないという理由で聞くことがなかったのですが、いざ歌ってみるといい曲ばかりで、難しい言葉もそれほど使われていなかったのが、私が想像

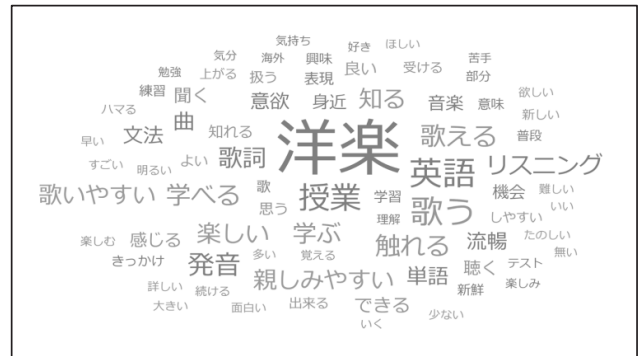


図20 洋楽を歌ったことの全体的な感想

していたよりも歌いやすく、洋楽の良さを知ることが出来ました。授業で歌うようになってからは色々な洋楽を聞いたりするようになり、洋楽が好きになりました。

- ・洋楽の歌唱を通して、新しい好きな曲を見つけられたり、単語やフレーズについて学ぶことができたので楽しかった。
- ・かなり歌いやすい曲が選ばれてるので楽しいし、単語のより自然な発音を知れるので良いと思った。
- ・音楽が好きなので、音楽を楽しみながら英語が出来てすごく楽しかった。
- ・普段授業では習わないような歌特有の表現などを知ることが出来てとても楽しかったです。
- ・楽しいと思いながら身近なところで英語を使える良い機会だと思いました。自分でも授業以外で洋楽を聞くようになったので、学習意欲が少し上がったのではないかと思います！
- ・洋楽が聴くものから歌うものになったことが良かった。歌詞から英語を覚えることで単語帳より頭に入ると感じた。
- ・授業の初めのモチベーションがあがり、はじまりに声を出すことで、残りの時間の会話が行いやすかった
- ・歌はその言語の特徴を色濃く反映しているものだと思うのでその言語の事を理解するうえで大きく役に立つと思う
- ・授業を楽しみやすい気持ちで始められる良いコンテンツだと思いました。国語や数学ではできない英語ならではのものだなと感じています。
- ・何よりも授業のはじめに音楽が聴けるのがよかったです。楽しい気分で授業を始めるところができた。また曲のセレクトがとてもよかったので家でも何度も聞き、他の曲を聴くきっかけにもなった。
- ・元々洋楽が大好きなので、とても楽しく授業に取り組むことができた。しかし、「ただ毎回歌って終わるだけ」という反復を何度も授業の度に行う

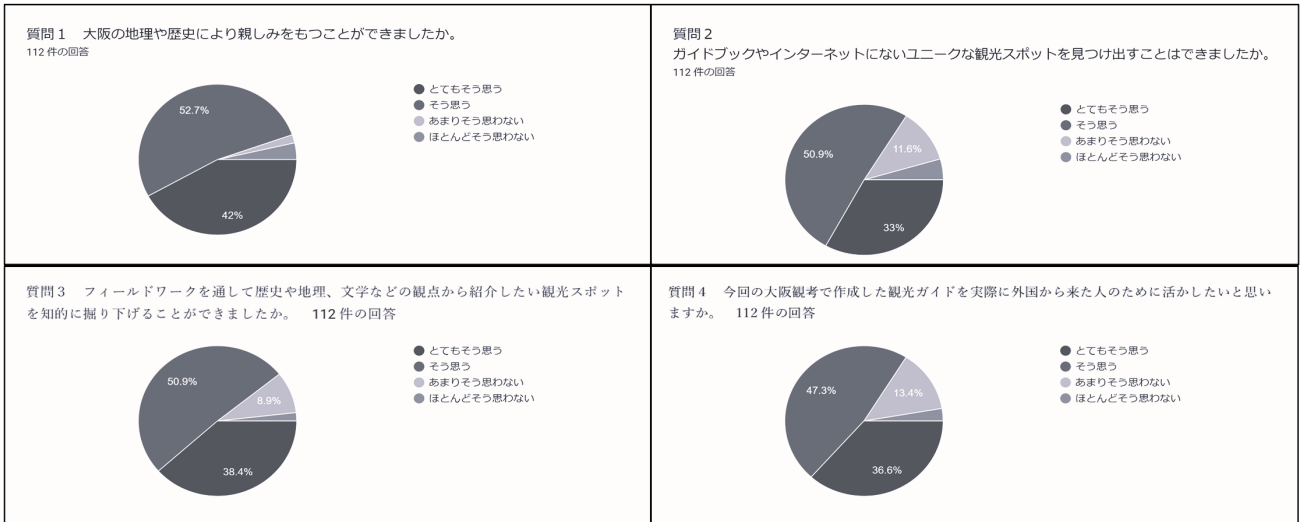


図 21 大阪観考についてのアンケート結果

だけでは、特に大きな成長は得られないと感じた。歌詞に含まれる表現などを自分の中に落とし込み、自在に使えるようになる段階まで到達しないと、意味は特になかったと思った。

7-3. 大阪観考のアンケート分析

大阪観考についてのアンケートをGoogle Formsで行った。図 21 は選択式の質問への回答である。質問 1 の回答から、約 90%生徒が大阪により親しみを持ったことが分かった。質問 2、3 の回答から、大阪観考のねらいである、ありふれたものではなく独自の視点で観光スポットを掘り出すことを多くの生徒が実感することができたと思われる。また、大阪観考の活動が学校の授業としての枠にとどまらず、実生活にも応用できると実感できたことは、質問 4 の回答が示唆している。

また、「大阪観考に取り組んだ感想、学びや気づきを教えてください」という問いに対する自由記述の解答からワードクラウド（図 22）を作成した。「知る」、「できる」、「考える」、「深い」、「楽しい」

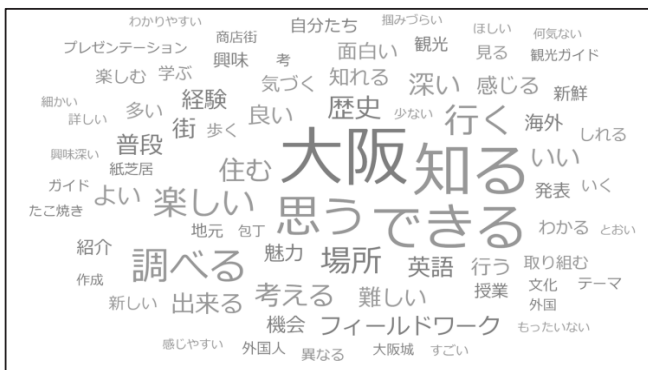


図 22 大阪観考の全体的な感想

などの言葉が生徒の語りの中で頻繁に現れていた。そこから読み取れるのは、大阪に通学している、あるいは住んでいるものの、その場所について知らなかった知識を身につけることができた。そして、観光スポットや発表方法について深く考え、学び、そこから楽しさを感じ取る生徒の姿である。

以下に生徒の記述解答の例を挙げる。

- 大阪観考は、地元である大阪について考えさせられ、自分の地元についてももっと知るきっかけになりました。こういった機会は少ないので、とてもいい思い出となりました。
- 観て考えてそれをガイドにする過程を経て、大阪のことをより深く知れたと思うので、これからおすすめスポットを聞かれた時にはこの経験を活かして答えたい
- 自分も住んでいるとても身近な存在である大阪だけれど、全然詳しく知らなくて調べたら興味深いことばかりだった。
- 私は黒門市場の歴史について取り組みましたが、実際に現地に行き商店街の方々にインタビューすることによってより良い観光ガイドブックを作成することができたと思います。また他の子の発表から大阪について自分自身もより深く学ぶことができました。
- 初めはただ大阪の街の魅力を、それを知らない外国人などに発表するものだと考えていた。しかし実際に取り組んでみると、魅力を知らされたのは僕たちのほうだった。僕は、「自分の住んでいる街だから」という単純な理由から勝手に大阪の魅力を知り尽くしていると。良い意味で勘違いしていたことに気付かされた。授業でないといわれることのなかったかもしれない場所にも行くことがで



図 23 大阪観考の経験を、英単語 1 語で表してください

きたので、とても貴重な機会になった。

- ・抹茶や着物など、体験して文化を実際に学ぶのも楽しいが、歴史からも文化の背景を深く学ぶことに気づいた。海外の方に観光ガイドを作るのは、周辺の施設やアクセスの良さを考える必要があり難しかったが、どうやったら楽しんでもらえるのかを考えながら制作するのが楽しかった。

アンケートの最後に、「大阪観考の経験を、英単語 1 語で表してください。」という問いを設けた。

図 23 では、回答に頻出した語が中心に大きく表れている。生徒にとって interesting discovery、すなわち『知的な冒険』であったことが示唆される。教員と生徒で「大阪観考」の意味を十分に共有できたこと、フィールドワークを通して本物に触れながら活動を進めたことが生徒の心に残ったと考えられる。

最後に

教育基本法改正（2006 年）第 30 条 2 項において、「生涯にわたり学習する基盤が培われる課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない」ということが明示された。学校現場では、「知識・技能、思考力・判断力」に加え「主体性」の評価が必要になっている。「生きて働く知識・技能の修得」「未知の状況にも対応できる能力」「高校での学びを人生や社会にいかそうとする学びに向かう力」が授業立案の軸としてある。今後の予測不可能な未来社会の中で生徒が高等学校での学びを想起し、活躍できる生徒の育成に教員としての責任を持ちたいとの思いで教師も協同学習を行った成果である。

謝辞

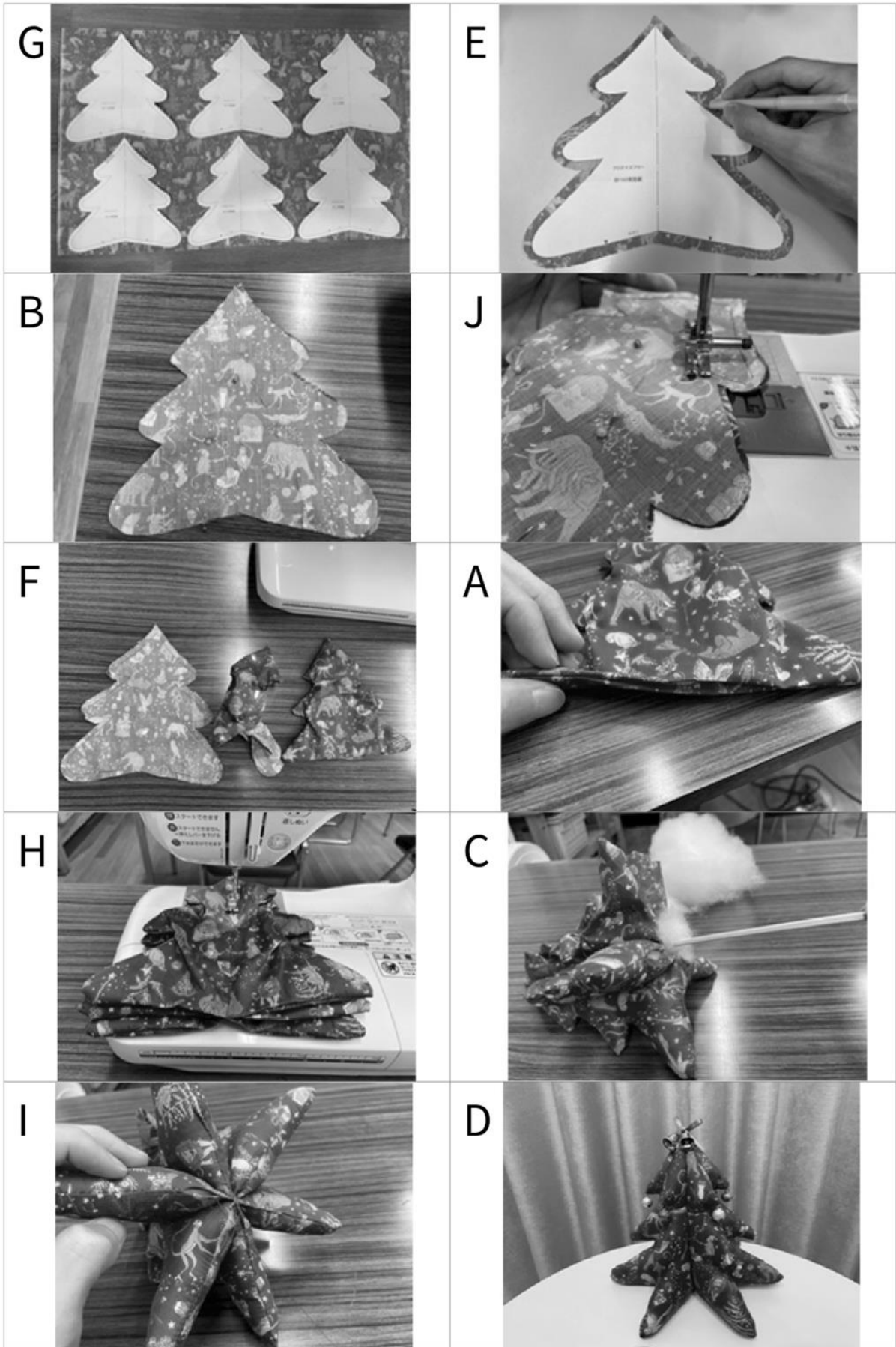
パフォーマンス課題とは、リアルな文脈の中で知識やスキルを応用・総合しつつ使いこなすことが課題である（西岡 2019）。

西岡加名恵先生（京都大学大学院教育学研究科教授）には年間 2 回の研修を行なっていただき、パフォーマンス課題の設定、単元目標の立て方、また評価についてご指導いただいた。

参考文献

山本崇雄『子どもの「やりたい!」を自律した学びにつなげる「学びのミライ地図」の描き方』学陽書房（2022）
石井英真『授業が変わる学習評価深化論』図書文化（2023）
石井英真『授業づくりの深め方』ミネルヴァ書房（2023）
石井英真『真正の学び、授業の深み』学事出版（2022）
西岡加名恵・石井英真『教科の深い学びを実現するパフォーマンス評価』日本標準（2019）
西岡加名恵『高等学校教科と探究の新しい学習評価』学事出版（2020）
西岡加名恵、大貫守『探究的な学習の評価』学事出版（2023）
西岡加名恵「資質・能力を育てるパフォーマンス課題」明治図書（2021）
西岡加名恵『逆向き設計で確かな学力を保障する』明治図書（2019）
文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領解説外国語編英語編』開隆堂出版
森村泰昌・ヤノベケンジ・東芋・伊藤存・松井智恵『大阪観考—大阪資産×5名の美術家』京阪神Lマガジン（2011）
KH Coderによるアンケートの自由記述における共起語の分析（<https://khcoder.net/>）
ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析（<https://textmining.userlocal.jp/>）

参考資料1 「ツリーのカードゲーム 写真」



参考資料2 「ツリーのカードゲーム 説明文」

④

Place six tree-shaped patterns on the backside of the fabric. Be careful of the direction of them. Trace each of them with a sewing chalk, and then cut them out.

③

Cut along the inner lines of a pattern, place it on the fabric, and trace three pieces with a sewing chalk. This step is optional.

⑩

Place two pieces of fabric with the right sides facing each other, and then carefully secure them with pins. In the photo, it looks like the backside of just one piece. You will get three sets of this.

⑧

Sew two pieces together over the marks using a sewing machine. Don't forget to backstitch at the beginning and the end. Leave the bottom side open for all three sets.

①

For all three sets, turn them inside out through the opening at the bottom. Use something like a chopstick to push out the tips.

⑨

Make the bottom openings neat and tidy either by hand or using an iron. That way, you can easily hand-sew this part later.

⑤

Join the three sets together using a sewing machine, sewing down the center, starting from the top and going all the way to the bottom.

⑦

Stuff cotton through the openings. Use a chopstick or similar tool to add a small amount at a time, starting from the top and corners.

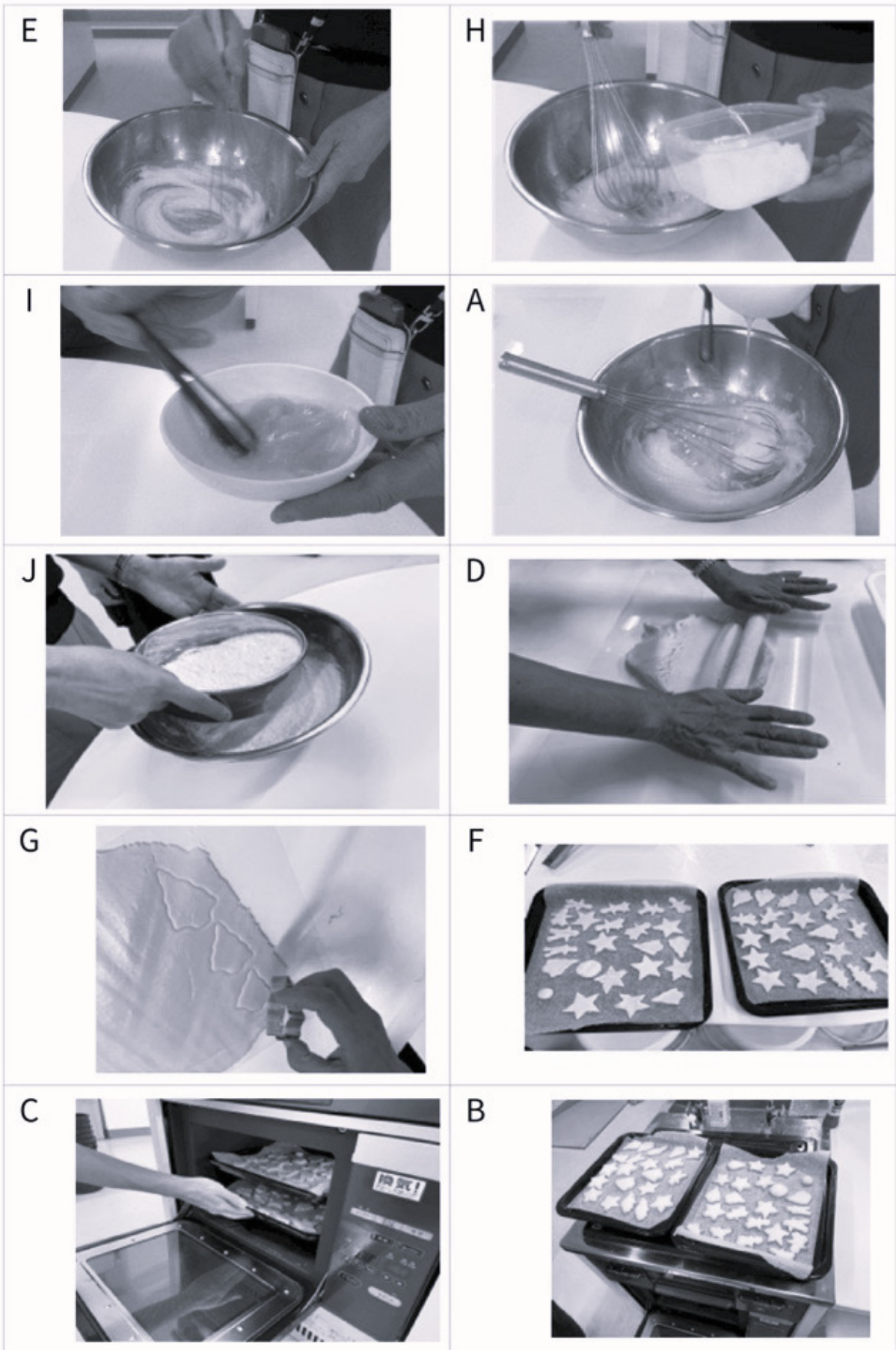
②

Carefully hand-sew the bottom opening closed. The more times you sew it, the more beautiful it will look.

⑥

Use your imagination and decorate freely with creative ideas. You can add more ornaments later according to your preference.

参考資料3 「クッキーのカードゲーム 写真」



参考資料 4 「クッキーのカードゲーム 説明文」

<p>⑤</p> <p>Beat butter with a mixer until smooth in a large bowl.</p>	<p>①</p> <p>In the large bowl, beat in sugar until white.</p>
<p>③</p> <p>In another bowl, beat an egg until yolk and white is well blended.</p>	<p>④</p> <p>Add the beaten egg into a large bowl and beat with a mixer until well blended.</p>
<p>⑩</p> <p>Sift flour and baking powder into the bowl. Mix with your hand until well blended.</p>	<p>②</p> <p>Sift flour onto a cutting board. When your dough is ready, roll it out to about 8~10mm.</p>
<p>⑧</p> <p>Cut out your cookies with templates.</p>	<p>⑥</p> <p>Place parchment paper on baking sheets. Lift the cut out onto baking sheets carefully.</p>
<p>⑨</p> <p>Pre-heat the oven to 180°C until the flashing stops and the buzzer sounds. Place a baking sheet into both the upper and lower sides of the oven. Then, bake cookies for 10 minutes.</p>	<p>⑦</p> <p>After baking, cookies and baking sheets are EXTREMELY HOT. Place the baking sheets onto gas stoves.</p>

Opportunities for Learning Through Authentic Experience

— To Empower Students for a Richer Life —

INUI Madoka ・ KATO Akihiro ・ YAMANOI Jumpei

Abstract: This paper is a record by three English teachers who taught the first-year students in the 2023 academic year. Based on theories learned from books and workshops, we developed an annual teaching plan. Our teaching throughout the year included emphasis on pronunciation, development of emotionally engaging teaching materials, respect for unique expression, and emphasis on dialogue among students, teachers, and families. We scheduled meetings every Monday to share information and ideas while progressing with our practices.

Key Words: English education, collaborative learning, Performance Task